

2001年10月29日(月)日本テレビ 会長社長定例記者会見 要旨

1. 10月改編新番組の評価(ズームインスーパー・ドラマetc.)

記者：10月の改編の新しい番組の評価について、うかがいたいと思います。

萩原社長：

今年は日本シリーズがひとつもなくて、あまりいい状況ではなかったんですが、なんとか39ヶ月連続の月間3冠王というのが取れました。

まず、「ズームイン・スーパー」ですけれども、ご承知の通り同時多発テロ以来、朝の時間帯でも、NHKのニュース系が、かなり数字を取っております。そういったNHKが非常に伸びている中で、新しくスタートした訳ですが、数字的には改編前とほぼ同じということで、ますますいいんじゃないかなと思います。今までズームイン朝はF3(女性50才以上)あるいはF2(女性35才～49才)あたりが中心的なターゲットだったんですが、かなりM1(男性20才～34才)、M2(男性35才～49才)の視聴者も増えつつあります。今回の改編の大きな課題でありました、NHKの連ドラの裏ですね。あそこをなんとかしないと、なかなか視聴率伸びないんですね。今、特集を組んでやってる訳なんですが、勢いを「レツツ」につなげるかという、分岐点になるのかな、ということです。視聴習慣の強い時間帯ですから、急に落ちることもないでしょうが、急に上げることも難しいわけで、もうすこし気長にやって行きたいと思います。

ドラマについては、YTVの1枠を含めて数字的には、しんどい感じです。ただ、よその局も、かなり連ドラの数字が低いという傾向だということはあると思います。その中で、水曜日の「永田町」、土曜日の「ダンジキ」は差別化をはかけて勝負に出たわけですから、安全を狙ってラブロマンスをやってコケるよりは、評価していいんじゃないかなと思います。

ですから、今後とも失敗を恐れずに思いきった企画でドラマは準備して行くつもりです。

記者：テロ以降、視聴者の視聴傾向が変わってきたというようなことは感じますか？

萩原社長：

バラエティー系の新番組が非常に苦しいというのは、この2～3年の傾向です。いかに辛抱するかということが、バラエティーを当てられるかということです。スタート時点でバラエティーがボーンと行くというのは、考えられない。

テロの影響で数字が伸びないのか、別の要因なのかというのは、ちょっと判断難しいですけども、僕はテロの影響が新番組の不振につながっているとは考えられないですね。

2. 来季G戦中継について(視聴率見通し・延長編成)

記者: 来季の巨人戦の中継の見通しですが、今季は視聴率についても低空飛行が続いた分もありますけれど、来季の巨人戦の中継の見通しについてうかがいたいと思います。

加えてですね、中継の延長につきまして、現状維持のまま行くのか。

萩原社長:

視聴率の見通しというのは、非常に立てにくい。15.8%という今シーズンの我社の巨人戦の平均視聴率そのものは、年間 76 本、2時間半ですから、悲観する数字ではない。ただ、去年に比べて3.7%下がったということは分析を進めていかなければならないだろうと考えております。

今年のデータもよく調べてみるとわかるんですが、巨人戦のコアターゲットはM3なんですよね。50 歳以上の男性です。この人たちは相変わらずしっかり巨人戦見ててくれます。ただ、その数字だけだと、ある意味 15.8%というのが限界なのかなと。今年の試合でも 20%以上取った試合が数試合ありますけども、その個人視聴率を分析すると、やはりM2がはっきり増える。これは 35~50 歳くらいまでの男性層ですね。あるいは女性、F2、F3が増える。そうなると、20%行くと出るわけですね。

そういう意味で言うと、長嶋さんは大スターであることは事実ですが、彼の現役時代を知っている人はM3なんですね。かたや、原さんは彼自身がM2な訳ですから、そういう意味で言えば、M3だけじゃなく、M2の視聴者も獲得して視聴率を伸ばす大きな要素になると思います。

原さんが監督になって、若い首脳陣で臨むということに関しては、M2あるいは女性層を取り込むということには、とってもいい、我々にとってはやり易い状態になったのかなという気がしています。

これを機会に原監督と若返った首脳陣を、我々の媒体を使って盛大にアピールしてM2世代を巨人戦に戻って来てもらおうじゃないかということで、原さんには期待しています。

そういうこともふまえて来期の巨人戦の中継は、月曜から金曜まで、60 分延長に踏み切りました。土曜、日曜は現行どおり 30 分延長ということで、来年はやっていくということにしました。

狙いは、M2獲得です。M3もそうなんですが、全体に視聴時間が後ろにずれていっているんですね。巨人戦のメインターゲットであるM3、それに期待しているM2にきちんとしたサービスをするためには、リスクを覚悟しても、やはりここで1回そういうファンサービスをやってみようということです。

何で、土日はそうじゃないかといいますと、正直申しあげまして、これ大変な営業的リスクがあります。土日に関しては非常に大きなリスクがありますので、残念ながら土日に関しては、従来通りということに、せざるを得なかった。

60 分延長しますと、今年の例で言うと、8割強の試合が試合終了まで放送できます。原監督も試合 자체をスピードアップしたいとおっしゃってましたが、そのスピードアップが実現すれば9割くらいは終了まで入れられるんじゃないかと考えてます。

営業的にはリスクは非常にあるんですが、視聴率でいろいろデータを計算してみると、9 時以降

は、今年でも 20% 近いんですね。そこは、延長しても 10 時台のいい番組というのがプライムより外へ出てしまうというというリスクがあるんですが、ただ 9 時以降の G 戦の視聴率というと、そっちの方は心配ないなということが言えます。

いずれにしてもですね、巨人戦というのは我々にとっては大変な、目玉商品ですし、読売グループにとっても、テレビに限らず、あらゆる意味でのキラーコンテンツそのものですから、我々のできるだけのことを精一杯やったつもりです。

もう 1 件、CS 日本の完全中継ですが、これは読売新聞及び巨人軍の方とも話がまとまりまして、CS 日本で、巨人戦の主催ゲームに関して完全中継をすることになります。

氏家会長：

スピードアップの話ですが、大リーグの試合は、日本より、1 時間以上短いんだよね。色々調べてみると、例えば 1 つは投手交代の時に、ダイアモンドの線をまたいたら、2 分以内にアンパイヤは次打者をバッターボックスに入れるというような、内規といいいますかね、そういう種類のがいっぱいあるそうだ。ところが、日本の場合は、8 球投げるなんてことがあるから、ワンポイントトリーフなんかだとダレちゃって、なかなかお客様も見てくれないということもあるんですね。

ビデオリサーチっていうリサーチ会社が調べているんですが、去年と今年を調べてみると、ジャイアンツを見ている家庭でも視聴時間が少なくなっているんだね。つまり、全部見ないんだよね、それは、試合がアメリカに比べて間延びしている点があるのかなという気がします。そういう調査がまとまつたら、参考資料としてジャイアンツとかセントラルリーグに出してみようかなという気は持っていますけどね。

記者：長嶋終身名誉監督との日本テレビとの関係は？

氏家会長：

結局、終身親戚みたいなものだからね。この間も彼と話しましたけどね、彼もそんな感じだったものですから、私共の媒体でも、積極的にいろいろやってもらおうかなと、案を練ってますけどね。

萩原社長：

一番手近なところでは、今度台湾でやるワールドカップの野球で、長嶋さんにゲスト解説でやつていただくことになります。

記者：1 時間延長によって番組的に何か、影響があるってことは？

萩原社長：

実際問題、火曜日でも水曜日でもだいたい 12、13 試合なんですよね、その上でさらに 9 時を過

ぎるゲームは、スピードアップしてもけっこうあるかなというところですけど、9時30分を過ぎるゲームというのは半分も無いんですよね。1年間でその曜日にどれだけ1時間延長があるかっていうと、せいぜい数試合だと思うんです。

ですから、巨人戦がある日は10時の番組をなくすとか、そういう必要はまったくないんですね。単純に押すってことですね。ただ、これ30分延長を設定したら、30分押すってことではないですから、10分くらいずつきざんで延ばしていくことは、できる訳だし。非常に大差がついてしまって、これ以上やっても意味ないや、という場合は編成判断で、途中で辞めなきやいけないケースももちろん、考えなきやいけない訳だしね。

氏家会長:

延長は、営業の売り方にね、ものすごく影響するんですよ。社の経営上大きな問題なんですよ。だけども、我々としては、ジャイアンツとプロ野球の人気を再び盛り上げていかないと、我々自身の将来にも関係するし、犠牲をあえてやるかということになった。

記者:CEO判断ということになる?

氏家会長:

損害を覚悟するのはね、最終的な損益に対する責任ですから、損益は覚悟している。本来なら9時30分のほうがいいんです。ある程度の損益は、覚悟しよう—それは、わが社及びグループの将来のためにプラスになるという判断です。

記者:大差がついたら止めるとおっしゃいましたけど、ボロ負けだけでなく、ボロ勝ちの場合も?

萩原社長:

それは、その場その場で編成判断になります。要はファンサービスですから、喜ばない場合は止める。喜んでいただけてる場合は続けるということです。

氏家会長:

大差で勝った場合は落ちないんだよ、レーティングが。ジャイアンツのファンってありがたいものだな。その代わり負けるとバ一と落ちてくるんですよ。大差で負けない事を期待するよ。

3. ジャイアンツ原新体制への期待

記者:原新監督になりまして、新しい巨人への期待は。

氏家会長:

若返ったということで、私共に来るファンの方のリアクションはね、どうも良いような感じがするんです。当然、プラスが出るんじゃないかなと思って、期待しておりますけどね。この次くらいのこの会で発表できるかもしれませんけど、いろいろ長嶋君に世界的にね、野球の問題で研究してもらおうかなと、思ってます。テレビの立場から、それは番組にもなりうるしね。そんなこと色々考えてますから、野球ファンの人は長嶋君の世界野球紀行みたいなものを、見ていただけると思いますけどね。表面だけじゃない、日米野球の違いとかね、野球に関する本質的な問題点を、主としてアメリカを中心にえぐりだして行ってくれるような、番組を連続もので来年は作って行こうってことを考えています。

4. アフガン空爆及び炭疽菌被害など取材スタッフの安全管理

記者:アメリカのテロ関連で、日本テレビではアフガニスタンに記者を配置して、取材活動を続けていらっしゃる訳ですが、その取材記者の方の安全管理及び、その放送体制につきましてお話を。

小林専務:

我々が安全に関して一番最初にやったことは、基本方針の再確認、つまり安全第一・人命第一ということです。安全第一のためには、特ダネはあきらめることもあると、取材はあきらめることもあるということの確認です。まず、こういうことを確認して、関係者に徹底したというのが最初にやったことです。それから、マニュアルの再点検。再点検し、それをみんなに知らせたと。

炭疽菌の方のマニュアルというのは、装備はどういうふうにするとか、道具はどうやって揃えるとか、取材範囲を特定するとか、万一感染した場合はどうするとか、ものすごく細かなことが記されてありますんで、有効に機能するはずだと思っております。

問題はアフガンの前線取材で、結局、こういう流動的な時にだれがどう判断するかという体制作りですね。それから、判断の責任体制を確立することに、最大の注意をはらいました。

現地、イスラマバードは今30人を越すスタッフがおりますけれども、そこにはならず、管理職の責任者を常駐させると。現場経験豊富な中間管理職を必ず配置させると。それで、30人を越えるスタッフはすべてその責任者の指示に従って行動すると。それで、その責任者が迷ったら、ホットラインで報道局長に相談して、もっとも適切な行動を指示しようと。だいたい以上3点ですね。

記者:安全と共に、重要なことじゃないかと思うでおうかがいするんですが、社論に関わることなんで、会長にうかがった方がいいのかもしれません、アフガン攻撃で日本テレビとして賛成なのか、反対なのかということと、同時に、ニュースなどでアメリカ軍のアフガニスタンに対する、空爆とか攻撃とかよんでもいらっしゃいますね、今、専務がおっしゃったように、戦争という

言葉はお使いになつていないう気がしてまして。局によっては、報復戦争という言葉は使うべきでは無いというコンセンサスで、ニュース等をやっているという局もありまして。そういったことが、日テレさんの場合はどうなつてあるのかということを、教えていただきたい。

小林専務:

私共のスタンスというのは、事実をありのままに客観的に報道すると。それ以上の分析というか、考え方というのは、言論機関にゆだねるべきだと考えています。テレビという免許事業の報道機関としては、できるだけ客観的につつ公正さを持って伝える。そういう、指示はほとんど毎日しております。むしろ、色を付けるなというのが指示で、どちらの色かというと非常に答えにくいということでございます。

記者:用語統一のようなことは、やっておられないということですか？

小林専務:

ちょっと今の件に関しては、僕は思い出さないんですが、絶えず日々やっております。

記者:報復と呼ぶべきじゃないというような、指示もあるんですか？

小林専務:

これは、私の記憶ですが報復というのは現実であり、事実であるから、使っていると思います。報復の正当性というものには、ふれていませんが報復という言葉自身は使っていると記憶しております。

5. NHKのインターネット事業に関する総務省案の評価

記者:総務省の方から、NHKのインターネット事業に関して、放送番組の二次使用、関連情報提供に関して基本方針が出ましたが、それに関して会長はどう思われますか？

氏家会長:

テレビ朝日の廣瀬君も言ってたし、フジの村上君もだいたい同じようなことを言っていますが、新聞業界が強力に求めているようにね、業態が違うんですから、きっちりしたすみ分けはやっておかなければいけないということは、事実だと思います。ただ私はね、NHKそのものの経営形態に対する、検討というのが社会的にまだ進んでないような気がする。この際もう一回、新世紀を迎えて徹底的にね、研究しておく必要がある。総務省の研究会っていうのは、どれだけコンテンツを流すかとかね、といった程度の話でしょ。しかも、集まっている方々も学者の先生とか、そんな方々だけでしょ、それでは、社会全体での検討にはなつて無いと思うんですよ。

そういう意味でね、新しくNHKのあり方を検討する研究会を設けるように提案したいと思ってます。今度新しく総務省で、ブロードバンド時代に向けた研究会を立ち上げるんですね。放送と通信はどうあるべきかというような。その時に、民放連提案という形で提案しようかなと思ってます。

記者：総務省が出した、見解に対して氏家さんはどう思われますか？

氏家会長：

もうすこし厳しくてもいいかなって感じです。例えば、3億円だとか 20 億だとか言いますでしょ。金額で抑えるなんてことは中途半端なことなんですよ。そのジャンルには出るか出ないかというふうにやったほうが、はるかにはっきりわかることだと思いますね。

6. 「千と千尋」の興行収入見通しと「三鷹の森ジブリ美術館」の現状

記者：「千と千尋の神隠し」の今後の興行収入の見通しと、「三鷹の森ジブリ美術館」の入場者数など、現状を。

小林専務：

観客数ではタイタニックを越えております。収入で越えるか、越えるならいつ越えるかということなんですが、先週末で248億。タイタニックは259億だからおそらく、11月の中旬くらいには260億。つまりタイタニックを越えるということになると思います。その後、お正月をまたいで、興行を続けるということがほぼ決まっておりますので、当分破られない記録をつくりたいと思います。300億を狙いたいと考えています。

それから、三鷹の森の方ですが、10月1日にオープンして1日 2400 人という限定入場を行っています。12月いっぱいのチケットはほぼ完売です。11月 20 日に1月～3月分までの、キップを売り出す訳ですが、これもあっと言う間に売り切れると思います。とりあえず、スタートは上々だと認識しております。

7. その他

記者：昨日、民放連の方から自衛隊法改正についての、反対の声明をだされましたけれども、圧力といいますが、そういうものに対して、対策を練っていけばいいとお考えでしょうか。

氏家会長：

言論統制をストレートに言う人は、さすがに日本にはいないんだけれど、まわりまわって言論の自由を侵すような、立法措置の動きだとかそういうものがある訳でしょ、そういうものは、どういう

形で出てくるかわからないですね。去年以来3つも4つも出ましたね。今度もその一つだと思ってますけど、そういうものに、絶えず目配りしながら、その影響を素早く読み取ってね、事前に叩き潰すというやりかたが一番いいんじゃないかと思います。遅くなりますとね、いろいろと飛び火したりしますからね。なかなか、消しにくくなる。一般論としてはそういう方式で行こうと思ってます。

記者：青少年の方の法案はどうでしょうか

氏家会長：

PTAの方も一生懸命なんですね、一生懸命なんだけど、かみ合わないんで、色々と、我々と話し合ってかみ合うようにしてましてね。ニッポン放送社長の亀淵さんは、PTAの方にも人気があって、話し合いがよくなってきたのは事実なんですが、亀淵さんがいなくなったら、上手くいかなくなったりたんじや困る。組織的かつ抜本的に解決しておかなければいけない問題なんで、その方向ではたゆまずに、手は打っていこうと思ってます。

以上